



習志野市学童保育でも

待機児童が増加

核家族化が進んでいる、働く女性が増加しているなどの社会構造の変化で、学童保育の重要性が増しています。今年も去る、4月22日（日）に、習志野市学童保育連絡協議会の定期総会が開催され、出席させていただきました。

総会には、学童保育連絡協議会に加盟している11児童会、全児童会が出席して2017年度の活動報告、2018年度の活動方針・計画が議題に取り上げられました。

◎学童保育の現状

①入会者数

2018年度の放課後児童会入会確定数は、1,183人です。（2017年度は1,109人。）市は、子ども・子育て支援事業計画の中間見直しで、2019年度の入会児童数を1,261人と見込み、2017年度の実績より152人増加と見込んでいます。

②定員いっぱいの児童会もある。

③上学年（4年生以上）の待機児童が増えている。

例えば、谷津小学校では第3児童会ができて児童会が1つ増えました。3児童会で156人入会していますが、上学年は入会できていません。（前年、116人入会）

また、鷺沼第1、鷺沼第2児童会では、定員いっぱいで、児童会室が非常に狭く感じます。

④支援員不足

放課後児童会の入会数が増えている中、支援員は不足しています。市は、不足する支援員を民間から補う方針で、来年度2019年度は、新たに藤崎第1、藤崎第2、大久保東の3つの児童会の民間業務委託を開始する予定です。

民間委託がすべて悪いとは言えませんが昨年度（2017年度）から民間の支援員を配置している「つだぬま児童会」の保育の検証を十分に行って、今後に生かしていかなければなりません。何よりも、児童が安心して利用できる児童会の運営と、安定した保育のために支援員の処遇が担保されるように市の取組みを求めて行きます。

公民館を考える

市民の要望に応えて！

私、藤崎ちさこは袖ヶ浦公民館のサークル「ウクレレハワイアンズ」のメンバーです。講師の先生の傘下の、習志野・船橋・八千代・四街道の教室が合同で毎年、交流合同発表会を開いています。今年も、5月13日（日）船橋市薬円台公民館に9サークル、114名が集まって、発表会が開かれました。

この交流合同発表会は日頃の練習の成果を皆さんに披露する場ではありますが、それだけではありません。年に1度しか会えないウクレレの仲間の元気な顔を見て、互いの健康で変わらない様子を確認し合う場でもあります。



この日も、自分の発表では適度な緊張を味わい、他のサークルの発表では感心したり勉強したりで、本当に楽しい時間を過ごすことができました。このようなサークル活動は、日常の生活の中にメリハリをつけることに役立っていて、大変素晴らしいことだと思います。

さて、以前にもご報告しましたが、このウクレレ交流合同発表会は、船橋市の薬円台公民館と高根台公民館2か所を交互に利用して開かれています。習志野で何故開かれないのか？ 理由は簡単です。習志野市の公民館にはステージがないからです。

また、ダンスやフラのサークルからは「鏡がある部屋で練習をしたい。」という要望を頂いています。新しくできる大久保の公共施設での市民の要望の吸収は勿論大切ですが、それ以外の公民館等の充実も手を抜いてはならないと思います。

今春も、谷津駅構内で

“地域ツバメ”！

毎年、春になるといつの間にか、ツバメがやって来ます。今年も、京成谷津駅の改札口付近にツバメが巣作りをしていました。

◎巣作り

ツバメは人間を恐れず、軒先などに営巣します。巣はドロとわらに唾液を合わせ、固めたもので深い皿のような形に作ります。

◎子育て

3月～8月までに子育てを行い、1年に2回ほど子育てを行います。1回で6個ほど卵を産み、ヒナが大きくなると巣があふれそうになるほど混雑します。ヒナが口を開けて餌をねだる様子は大変愛らしく初夏の谷津駅周辺の風物詩です。

(京成谷津駅改札口付近)

